

## 保存科学研究集会の開催

保存修復科学研究室では、保存科学分野に関する意見交換や幅広い情報交換をおこなう場として保存科学研究集会を開催しています。今年度は、去る2月5日（土）に奈良文化財研究所平城宮跡資料館講堂において「古代の玉－最新の保存科学的研究の動向－」と題して研究集会を開催し、全国から97名の方々にご参加いただきました。

今年度の保存科学研究集会は古代の玉製品を主題として取り上げ、ガラス製玉類をはじめ、石製、あるいは琥珀製の玉類などを対象に8件の講演がおこなわれ、製作技法や材質に関する最新の研究から、年代や生産地に関する様々な新しい情報が提示されました。とくにガラス製の玉類に関してはインドや東南アジア、さらにイスラム、ローマなどに起源をもつものが、陸や海の交易ルートを経由して韓国や日本に伝えられたことが明らかとなってきました。もはや日本国内だけの技術の伝播や流通にとどまらず、広く世界的な視野も必要となってきているようです。総合討議では産地や流通などの議論に加えて、分析法やデータ解釈に関する問題についても活発な議論がおこなわれました。

ポスター発表では玉製品に限らず、広く保存科学に関する話題について取り上げ、鉄製品や遺構の保存などに関する6件の報告がありました。ポスターを前に、様々な話題が飛び交い、お互いが抱える保存科学分野の多くの問題が語り合われました。今後も様々なテーマで保存科学研究集会を開催していくことで、保存科学分野の発展につながっていくことを期待しています。

(埋蔵文化財センター 田村 朋美)

